

○ 風力発電も開発

火力や原子力といった発電に比べ、風力発電はクリーンなエネルギーとして注目されています。確かに火力発電所のように、発電プロセスを通じての、地球温暖化の原因のひとつといわれる二酸化炭素の排出や、放射性廃棄物を生み出すことはありません。しかし、風力発電といえども、様々な形で環境に負荷を与えるとの認識が必要です。

【景観の破壊】

- ・ 国立公園等の自然公園は、わが国を代表する傑出した自然の風景地などの地域を対象に指定します。近年大型化の傾向にある風力発電の公園内への設置は、公園内景観を大きく破壊するものです。

【面的な破壊】

- ・ 風力発電は火力や原子力といった発電と比べ、単位面積あたりに生み出されるエネルギー量が小さい（＝エネルギー密度が低い）という特徴があります。このため、ある程度の量を風力発電で賄う場合は、数多くの発電機を設置する必要がでてくるため、面的に広い範囲で環境に悪影響を与えるものです。

【輸送・アクセスの影響】

- ・ 近年の風力発電は、効率的に大量の発電を行うため、大型化しています。山間部等、アクセスが不便な所が設置場所である場合（風の条件はこうしたところでよい場合も多い）、そこまでの運搬方法（トンネルや道幅のせまいカーブ等）が問題となりえます。さらに、道路から設置場所までの輸送経路を確保するとすると、そうした箇所、周辺環境への悪影響が懸念されます。

【送電に関する問題】

- ・ 発電場所とエネルギー消費場所の距離が離れている場合、発電した電力を必要な場所まで送電することになります。送電のための電線が、自然公園に生息する猛禽類や渡り鳥をはじめとした野生生物の障害物になることも考えられます。たとえ地中化するにしても、その過程での自然環境への悪影響は避けられません。